図南会

天草高校の発展こそ天草振興の原動力

天草高校同窓会図南会会長　安田　公寛

コロナウイルスの嵐の中、今年も例年通り卒業式の前日に図南会の入会式を挙行することが出来ました。今年の入会者230名は、まるまる2年間コロナ感染防止対策のための学校生活を余儀なくされた生徒達ですが、例年と何も変わらず元気な姿で出席してくれました。彼等はオンラインの授業等を「新しい日常」として受け入れ有効的に活用してきたのでしょう。その素晴らしい対応力にただ脱帽です。しかし式典は学校側の意向を踏まえてかなり縮小して実施、図南会からは会長のみが出席して役員理事および事務局も参加せず、来賓は学校長のみで各地区図南会会長さん方のご出席を予定していたのですが残念ながらそれも叶いませんでした。

さて、コロナ禍の中でも進学の状況は昨年に引き続き良好のようです。既に九州大学や熊大医学部など全国の難関大学や有名私立大学など多数の合格者が発表されています。昨年から各大学ごとに合格者数を記した「大看板」を町中の目立つ所に揚げて市民に広報されていますが、市民の皆さんの関心も高く今年も楽しみです。このことが中卒者の島外流出に歯止めをかけて天高の入学者増に繋がれば良いのですが、今年も残念ながら50名程定員割れのようです。天草工業高校や拓心高校等、島内の他の高校も軒並み大幅な定員割れの状況であり、最近の天草の人口減少や今後も続くであろう少子化を考慮すれば仕方ないのかもしれませんが何とかしなければなりません。天草高校の発展こそ天草振興の原動力との思いで頑張りましょう。

私は同窓会の基本的な役割は、会員の親睦融和は勿論ですが母校の「教育の振興に寄与すること」ではないかと考えています。先ずは教育振興に的をしぼって活動したいと思います。会費の収納力を上げて予算の中の教育振興費を増やしていかねばと考えています。昨年から会費をコンビニ収納にして少し増加の傾向にあるので、もっともっと努力すれば可能性があると思います。皆さん方のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に関西地区図南会の益々のご発展と会員皆さんのご健勝をお祈りしてご挨拶といたします。

関東あまたか会

定着したオンライン会議

関東あまたか会会長　山中　麗子

関西図南会の皆様には、いつもお世話になっております。

長引くコロナ禍の中で、関東あまたか会で大きく変わったのは、今まで対面だった会議をすべてZOOMのオンラインとし、それがすっかり定着したことです。

大学生たちの卒業祝いも2月にオンラインで行いました。今年は、学生の出席者が5人と少なかったのですが、在学生の皆さんには助成金を出し、好きな食べ物や飲み物を食べたり、飲んだりしながら、授業がほとんどリモートになり、実験のときしか学校に行かないとか、バイトが少なくなったとか、就活の大変さなど、いろいろな苦労話も出ました。

また、嬉しかったのは、天草から西田元副会長と熊本市から金子図南会事務局長の特別参加があり、天草弁の飛び交う中、懐かしい思い出話に、花が咲きました。オンラインのメリットは、どんなに遠くの人とも、すぐそばで顔を見ることができ、元気な声も聴くことができます。やはり同窓会は、顔の見える関係が一番です。

もう一つのニュースは、事務局長が25回生の吉村いつみさんに代わりました。会報の編集会議や役員会など、得意なパワーポイントがバリバリと登場し、視覚で訴えることで、非常にわかりやすく、議事もサクサクと進みます。若い世代に代わりつつあることを実感しています。

今年も関東あまたか会は、10月16日（日）にJR四ツ谷駅前のスクワール麹町で、リアルな総会を開催でき、皆さんと2年ぶりに笑顔でお会いできることを楽しみにしています。

ZOOM

本当に便利な世界です。海外に住んでいる孫と話すときもZOOMを使って話をしています。日本語の勉強にもなるのでとても喜んでくれています。遠い外国にいるのですが、距離を感じなくなりました。数年前には外国には電話できませんでしたものね。今は無料で会話を楽しんでいます。

中京支部

御挨拶

中京支部会長
福田　和幸

令和三年十二月、金子泰孝名誉会長（高一回生）が逝去されました。中京支部は、大きな人を失くしました。本渡高等女学校の御姉様方からは「金子くん」と親しく歓待され、中京支部の先達の方々からも「金子先輩」と尊敬されていました。ここに、謹んでお悔やみ申し上げます。

金子名誉会長の他、同窓会設立当初のメンバーは、昭和三十年前後に尾張地区に移られてまいりました。昭和六年「満州事変」、七年「五・一五事件」、十二年「日中戦争」があり、尾張地区としても心身とも疲弊した時代がありました。昭和十六年、英米に宣戦布告「太平洋戦争」が始まり、三年九ヶ月に及ぶ戦乱の末、昭和二十年八月十五日正午、日本国民へ玉音放送「終戦」を青春時代の真っただ中を、天草で迎えていられていることになります。戦争を知る世代なので、いろいろ御話も伺いたかったのですが、今は、それも果せません。

尾張では、昭和十三年に「トヨタ自動車」が挙母工場（現　本社工場）で操業開始し、「自動車王国愛知」として活況を呈することになります。三菱など兵器工場も多く造られています。戦後、昭和二十五年に勃発した「朝鮮戦争」により、尾張地区は繊維製品の生産に適した気候・地下水・風土に恵まれ、大垣市・一宮市・尾西市・津島市などの集積産地が形成され、「繊維王国愛知」としても活況を呈した時代を尾張で過ごされています。

私見ですが、メンバーの中でも、芸術家の松田安弘さん・教職者の金子泰孝さん・開拓者の矢島静子さんを三本柱とした「顔が見たい。話がしたい。」という強い意志の息吹が感じられました。はたして、初期メンバーは「中仙道」の諏訪～伏見（可児）～鵜沼～加納（岐阜）でつながり、また、「美濃路」の、名古屋～清須～稲葉（稲沢）～一宮～大垣でもつながっています。なにかの御縁なのでしょうか。最近は「飯田街道」の名古屋～豊田～足助でも、つながりが見られます。

話は変わります。中京支部の令和四年度総会・懇親会は六月十九日（日）名古屋市千種区の「ルブラ王山」での開催を予定しています。どこの支部でもそうですが、強い懸念事項が継続しています。

原稿執筆の三月四日の新型コロナウイルスの感染確認は、愛知県で四千三百五人、岐阜県で六百三人、三重県で五百六人です。愛知県では、三月二十一日まで再延長されてしまいました。歓送迎会や花見などは自粛を求められます。

「ルブラ王山」の新型コロナウイルス対策は、陽性とされた方・濃厚接触の方・発熱されている方・体調のすぐれない方は「入館禁止」。宴会は、参加者同士のお酌・回し飲み禁止、食事中以外はマスクの着用、会話は控えめにということです。

とにかく今は感染が収束し、ウィズコロナの開催を目指すしかないと覚悟を決めています。原点に戻って「顔が見たい。話がしたい。」総会懇親会を工夫したいと思います。

おにゆり

小さなころ、おにゆりの花弁で輪ゴムを赤く染めて遊びませんでしたか？花びらは柔らかくして風船のように膨らまして遊んだ記憶があります。指先が赤く染まり楽しかったなあ。大人になり、大阪のお節に使われる百合根ってこのおにゆりの球根だと知り、驚きました。食べられたんですね。

第4回3地区交流会のご案内

（関東・中京・関西地区）

日　時　9月10日（土）、11日（日）
費　用　未定（前回は名古屋までの交通費を除いて１８０００円位でした）

なお新型コロナウイルスの感染状況により、安全が確認されなければ延期とします。申込は事務局か学年幹事まで、もしくはホームページの「お問い合わせ」からお願いします。